

話し言葉における副詞の生起位置と係り先までの距離の関係

島崎 英香¹ 丸山 岳彦²

¹専修大学大学院文学研究科 ²専修大学国際コミュニケーション学部
dl201001@senshu-u.jp maruyama@isc.senshu-u.ac.jp

概要

日本語の話し言葉（独話）を対象として、副詞の「生起位置」および「係り先までの距離」の2点について議論を行う。副詞は「程度副詞」「情態副詞」「陳述副詞」の3種に分類されるのが一般的であるが、これらの区別が「副詞が発話中に生起する位置」「副詞が修飾する文節までの距離」とどのように関連するかについて、『日本語話し言葉コーパス』（CSJ）に出現した事例をもとに分析した。

1 はじめに

現代日本語の副詞は、山田（1936）[1]以来、「程度副詞」「情態副詞」「陳述副詞」の3種に分類されるのが一般的である。程度副詞はある状態の程度を限定する副詞で、「ちょうど」「よく」「かなり」などがある。情態副詞は主に動詞を修飾し、動詞の様子を描写する副詞で、「もう」「まだ」「どんどん」などがある。陳述副詞は命題に対する話し手の主観的な見方、判断を表す副詞で、「やはり」「多分」「なぜ」などがある。

しかしながら、副詞の分類をめぐるのは、この3種以外にも実に多くの案が示されてきた。益岡・田窪（1992）[2]は、副詞を「様態の副詞」「程度の副詞」「量の副詞」「テンス・アスペクトの副詞」「陳述の副詞」「評価の副詞」「発言の副詞」などに分類している（このうち最後の3種は「文修飾副詞」としてまとめられている）。このような分類案の乱立は、文中における副詞の働きが多岐にわたっていることに起因すると思われる。統語的に言えば、情態副詞と程度副詞は主に述語を修飾し、陳述副詞は文全体を修飾する。さらにその意味までを考え合わせると、分類の軸がなかなか定まらない、ということになるのであろう。

このような現状を背景として、本稿では、話し言葉（独話）を対象として、副詞の「生起位置」および「係り先までの距離」という2点について分析を行う。話し言葉の中で、副詞はどのような位置に生起し、どれだけ離れた要素を修飾するのだろうか。既存の副詞の分類は、そのような副詞の統語的な振る舞いとどのくらい関連するのだろうか。

2 分析対象データと調査対象語

2.1 分析対象データ

本稿では、分析対象データとして、『日本語話し言葉コーパス』（CSJ）のRDB版（以下、CSJ-RDB）Ver. 2.0を使用する。CSJは、約661時間・752万語分の自発音声（大半は独話）を収録した大規模コーパスである[3]。

CSJ-RDBとは、CSJに含まれる約45時間分の「コアデータ」を対象として、CSJに付与された各種のアノテーションがRDB化されているデータである[4]。本稿の分析では、UniDicに基づく形態論情報、係り受け構造情報、節単位情報を用いる。

このうち節単位情報とは、発話を「節単位」に分割したものである。特に日本語の独話の場合、連用節や並列節が後方に再帰的に連鎖し、「文」が長大になることがある[5]。そこで、統語的な切れ目の大きい節の境界を発話の分割点とし、人手による修正を加えることにより、文に代わる統語的単位としての「節単位」が認定されている[3,6]。

表1に、分析対象データのサイズを示す。

表1 分析対象データ

種別	短単位数	節単位数	副詞総数
APS	218,572	8,620	4,301
SPS	226,328	9,781	8,887

2.2 調査対象語

調査対象語として、形態素解析により「副詞」と解析されている語（短単位）を抽出して利用した。先行研究を参照しながら、これらの副詞を「程度副詞」「情態副詞」「陳述副詞」の3種に分類した。このうち、頻度 50 以上の副詞（書字形出現形）の一覧を以下に示す。

程度副詞：あまり、あんまり、かなり、すぐ、ずっと、たくさん、ちょっと、とても、なかなか、もっと、よく、より、わりと、一番、結構、最も、少し、全く、全然、大体、大変、殆ど

情態副詞：だんだん、ちゃんと、どンドン、また、まだ、もう、一応、初めて、色々

陳述副詞：ちょうど、つまり、とにかく、なぜ、まず、もし、やっぱり、やはり、結局、多分、特に、必ず、勿論、例えば

以下、3 節では副詞の生起位置について、4 節では副詞の係り先までの距離について、それぞれ分析する。

3 副詞の生起位置

3.1 予測

一般的に、程度副詞や情態副詞は述語を修飾し、陳述副詞は文全体を修飾するとされる。ここから、前者は節単位の中でも比較的后方に、後者は比較的前方に、それぞれ出現することが予測される。このことを検証するため、節単位の中で副詞が何語目に来るのかという相対的位置を調査した。

3.2 調査手順

CSJ-RDB に含まれる節単位情報をもとに、ある節単位に含まれる短単位数 (N) のうち、何語目に副詞が現れているか (A) を検索し、A/N によって副詞の生起位置を数値化した。0 から 1 のうち、値が小さいほど節単位の前方に副詞が現れていることを意味する。

3.3 結果

表 2 は、節単位中における副詞の生起位置について、平均値を求め、昇順で示したものである。

表 2 副詞の生起位置（頻度 50 以上）

副詞	位置	副詞	位置
陳_例えば	0.182	情_ちゃんと	0.425
陳_つまり	0.235	程_ちょっと	0.444
陳_まず	0.238	程_あんまり	0.447
陳_特に	0.266	情_どンドン	0.449
陳_結局	0.277	程_少し	0.459
陳_やはり	0.287	程_結構	0.459
陳_ちょうど	0.301	程_わりと	0.460
陳_勿論	0.305	程_最も	0.460
陳_なぜ	0.317	程_すぐ	0.467
陳_多分	0.320	程_ずっと	0.486
陳_もし	0.329	程_あまり	0.497
陳_やっぱり	0.334	程_全然	0.505
陳_とにかく	0.348	情_色々	0.510
情_もう	0.354	程_より	0.511
情_一応	0.362	程_かなり	0.517
程_大体	0.365	陳_必ず	0.518
情_だんだん	0.369	程_殆ど	0.527
情_また	0.399	程_全く	0.529
情_まだ	0.401	程_よく	0.537
情_初めて	0.413	程_とても	0.555
程_一番	0.415	程_大変	0.576
程_なかなか	0.419	程_たくさん	0.609
程_もっと	0.420		

3.4 考察

表 2 を見ると、陳述副詞は節単位の前方に、情態副詞は中ほどに、そして程度副詞は後方に、それぞれ生起していることが分かる。陳述副詞は節単位の冒頭付近に現れ、それ以降で展開される発話内容全体を修飾しているものと考えられる。それに対して、程度副詞・情態副詞は述語を修飾するものであるから、述語に比較的近い位置、すなわち節単位の中でも比較的后方に位置していると解釈できる。この結果は、3.1 の予測とほぼ一致する。

しかしながら、陳述副詞の中には異質な位置にあるものも散見された。例えば「必ず」は、節単位の中でもかなり後方に生起している。副詞の文体的特徴を分析し、その客観性・主観性について論じている前坊 (2014) [7] は、「必ず」について、「情報伝達の役割が強くなる従属節での出現傾向が有意に高く、思考動詞との共起は低かった」(p.102)と述べている。表2で見た節単位中における生起位置が他と異なるという点から見ても、陳述副詞としての「必ず」は他の陳述副詞に比べて主観性が低いと言えるかもしれない。

一方、情態副詞の中でも、「もう」「一応」は節単位の比較的前方に現れている。また、程度副詞では「大体」「一番」「なかなか」などが比較的前方に位置している。工藤 (2016) [8] や石黒 (2023) [9] は、程度副詞と主観性・評価性との接点について言及しており、主観性の強い程度副詞が存在することが指摘されている(ただし工藤 (2016) [8] は、情態副詞はことからの側面に偏るという)。節単位中における生起位置と主観性の強さの関連については、稿を改めて論じることにはしたい。

さらに、「やはり」の語形のバリエーションについて言及しておきたい。「やはり」は、「やはり(頻度 179、距離 0.287)」「やっぱり(頻度 220、距離 0.334)」「やっぱ(頻度 19、距離 0.398)」「やっぱし(頻度 19、距離 0.421)」という語形のバリエーションを持つが、数値を見ると、この順で後方に生起する傾向が強くなっていることが分かる。語形がカジュアルな方向に変化するほど、主観性が薄くなり、述語に近い位置に生起しやすくなる傾向がある、と説明できる可能性がある。

4 副詞の係り先までの距離

4.1 予測

次に、副詞の係り先までの距離について検討する。ある副詞が何文節先の文節を修飾しているか、という点を考えると、陳述副詞は発話の冒頭付近に現れてかなり後方の要素を修飾するのに対して、情態副詞・程度副詞は比較的近い位置にある述語を修飾すると考えられる。ここから、前者は係り先までの距離が長く、後者は短いと予測される。

4.2 調査方法

CSJ-RDBに含まれる係り受け構造情報 [10] をもとに、ある副詞が何文節先の文節を係り先としているかを計測した。ただし、副詞は短単位に属する品詞情報であり、文節とはレベルが異なる。そこで、CSJ-RDBの短単位テーブル・文節テーブルを結合して、「品詞が副詞となっている短単位から始まる文節」を抽出し、これを分析対象とした。

ただし、CSJ-RDBの係り受け構造情報では、談話の中で係り先が消失している場合には係り受けが付与されていない。これには「つまり」や「例えば」などの副詞も含まれるため、分析対象は若干目減りすることになる。

4.3 結果

表3は、3種類の副詞がそれぞれ何文節先を修飾しているかを示したものである(頻度10以上、上位10位ずつ)。

4.4 考察

表3の平均距離の平均値を見ると、陳述副詞が4.38、情態副詞が2.66、程度副詞が1.97という結果となっており、陳述副詞が係り先との距離が最も長く、情態副詞、程度副詞と続く形になっている。これは、4.1の予測と一致する。

陳述副詞の上位に現れている「つまり」や「例えば」などは、節単位の冒頭で談話標識(ディスコースマーカー)として働く場合が多いため(この点では接続詞に近い)、係り先までの距離が遠くなっているのだと考えられる。

ただし、「旋律の調つまり長調ですとか短調」「長三和音例えばドミソミド」のように、言い換えの中でこれらの副詞が使われる場合もある。この場合は必ずしも節単位の冒頭に出現するわけではなく、節単位中のいずれの位置にも現れ得る。分散が大きくなっているのは、その影響があるかもしれない。

また、先述の通り、係り先が消失している副詞の中に、「つまり」「例えば」が多く含まれていた。節単位の冒頭でこれらの副詞を談話標識として発した後、話がねじれてしまい、そもそも想定されていた係り先が消失してしまった、という事例が多くあるものと推測される。

表3 副詞の係り先までの距離（頻度10以上）

	語形	平均距離	分散	最大
陳述副詞	つまり	10.14	48.24	33
	例えば	9.35	57.54	43
	やはり	6.93	40.88	51
	恐らく	6.84	38.78	27
	むしろ	6.06	32.05	26
	特に	5.95	33.61	28
	やっぱり	5.82	29.30	34
	やっぱりし	5.58	13.72	14
	当然	5.49	18.04	19
	やっぱ	5.43	28.63	25
	平均	4.38	16.36	17.81
情態副詞	突然	4.46	14.75	18
	予め	4.23	16.49	11
	取り敢えず	3.97	15.18	19
	暫く	3.59	10.83	11
	まだ	3.35	8.55	18
	また	3.34	7.53	24
	初めて	3.25	8.22	16
	たまに	3.12	11.64	13
	やっと	2.85	1.82	6
	だんだん	2.84	4.71	13
	平均	2.66	6.73	11.75
程度副詞	わりと	3.50	18.75	25
	結構	3.06	11.73	26
	更に	2.95	6.92	13
	なかなか	2.91	7.88	21
	よく	2.50	11.44	21
	全然	2.46	5.04	12
	あまり	2.42	4.81	14
	随分	2.20	6.52	15
	あんまり	2.17	3.73	12
	ちょっと	2.06	2.98	17
	平均	1.97	3.17	9.61

5 まとめ

本稿では、話し言葉（独話）に現れる副詞の「生起位置」「係り先までの距離」という2点について分析を行った。

副詞の生起位置については、陳述副詞は節単位の比較的前方に、情態副詞・程度副詞は比較的后方に、それぞれ生起している実態が明らかになった。しかしながら、結果を子細に観察してみると、陳述副詞であっても比較的后方に生起するものや、反対に情態副詞・程度副詞であっても比較的前方に位置するものがあることが分かった。副詞の位置は話し手の判断や主観に関わることが推測される。この点については、それぞれの副詞が固有に持つ主観性・客観性という特徴と関連付けて考える必要があるだろう。

一方、係り先までの距離について見ると、程度副詞、情態副詞、陳述副詞の順に距離が長くなっている実態が明らかになった。各副詞の文法的機能が、統語的な係りの距離に反映された結果と見てよい。ただし、文中における副詞の働きによっては、遠くまで係るはずの陳述副詞がごく短い距離で係っている場合も観察された。これらについては、具体的な文脈における各副詞の使われ方について検討することが必要になるだろう。

今後は、副詞の生起位置、係り先までの距離に加えて、主観性・客観性、各副詞の用法などの観点を加えた上で、程度副詞・情態副詞・陳述副詞という3分類の妥当性を発展的に検討する可能性を模索していきたい。

参考文献

- [1] 山田孝雄（1936）『日本文法学概論』宝文館。
- [2] 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法 一改訂版一』くろしお出版。
- [3] 国立国語研究所（2006）『日本語話し言葉コーパスの構築法』国立国語研究所。
- [4] 『日本語話し言葉コーパス』コア RDB 版（CSJ-RDB）Version 2.0 利用の手引き
- [5] 丸山岳彦（2014）「現代日本語の多重的な節連鎖構造について—CSJ と BCCWJ を用いた分析」『話し言葉と書き言葉の接点』, pp.93-114. ひつじ書房。

- [6] 丸山岳彦 (2015) 「第3章 発話の単位」『話し言葉コーパス 設計と構築』(講座 日本語コーパス 3), pp.54-80. 朝倉書店.
- [7] 前坊香菜子 (2014) 「「必ず」「ぜったい」「きっと」の文体的特徴 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の調査から」『一橋大学国際教育センター紀要』5, pp.93-104.
- [8] 工藤浩 (2016) 『副詞と文』ひつじ書房.
- [9] 石黒圭 (2023) 『コミュカは「副詞」で決まる』光文社新書.
- [10] 内元清貴・丸山岳彦・高梨克也・井佐原均 (2004) 「『日本語話し言葉コーパス』における係り受け構造付与」CSJ 附属マニュアル